

入選

この学校で感じた「親切」

イギリス ロンドン日本人学校 小学部 6年 犬塚 万尋

「はじめまして、^{まひろ}万尋って言います。わからないことがあったら、聞いてね。」

ちょっと勇気を出して、言ってみた。

「ありがとう。」

そう言ってくれたその子を見て、心がぽかぽかと温まっていくような気がした。私は、今でも自分から転入生に声をかけるのはうまくない。特に以前は、話しかけるのがはずかしかったから、ただただ話しかけられるのを待っていればいいと思っていた。しかし、この学校に来て、その考えは変わった。

私は今、ロンドン日本人に在学中だ。生徒の入れかわりが多く、一年で10人以上、転校生や転入生がいてもおかしくない。そんなロンドン日本人学校に来たときは、初めての転校がどうしても不安だった。緊張して緊張して、自己紹介の声かふるえた。けれど、クラスみんなはすぐ声をかけてくれた。

「お菓子作りがしゅみって言ったよね。どんなものを作るの？」

「弟か妹とかいる？ 私は妹が2年生にいるんだけど。」

休み時間にそう聞かれると、思わず自分が笑顔になるのがわかった。ほかにも、

「万尋ちゃん、今日あいてる？ よかったら、いっしょに遊ばない？」

と遊びにさそってくれる子もいたし、

「私も来たばかりなんだ。みんなの名前、覚え中。」

と自分のことを教えてくれたり、

「学校探検しよう。」

と言って、学校を案内してくれたりもした。みんな、転入生の私に親切にしてくれただけではなく、まるで前から友達だったかのようにもふるまってくれていた。

そんなみんなの思いやりのおかげで、初日から学校も楽しかった。

転入生にも、そうやって声をかけ、やさしく接すると言うことは、生徒の入れ替わりがはげしいロンドン日本人学校ならではの「小さな親切」なんだと思う。私が転入したとき、一番最初に声をかけてくれ、一番私を助けてくれた子は、今夏転校し、学校を去る。だから私は、彼女の思いやりという名前のバトンをもらい、そしてそれをみんなにもわたしていきたい。

みんながだれかに「小さな親切」をしたら、その小さな親切が集まって大きな親切になるんだと思う。だから、私たちが持っている少しずつの親切で、自分たちのクラスを、いや学校を、思いやりのあふれるものにしたい。